

ふるさと川の「喜瀬川」などを一斉清掃

播磨町自治会連合会は、おとし5月の総会で喜瀬川がまちの憩いの場として、またみんなから愛されるシンボルとなるように「喜瀬川美化に関する決議」を採択しています。そして7月6日(日)、この決議に基づき、多くの住民が参加して「喜瀬川と水田川の二斉清掃」が実施されました。



▲多くのごみが集まりました

つき、多くの住民が参加して「喜瀬川と水田川の二斉清掃」が実施されました。参加者は長く伸びた雑草を引き抜き、またそれらに隠れていた空き缶やごみを、額に汗を浮かべながら拾っていました。また参加者の一人は、「ごみや雑草が多いのに驚いているが、犬のフンにはもっと驚いている。喜瀬川はみんなの川で一人のものではないの」と少し残念そうに話されていました。

地域ぐるみで子育て 「子育て井戸端談議」開催

7月8日(火)、子育て支援センター「であいの塔」で、子育て中の人に限らず地域のさまざまな年代の人が集



▲活発な意見交換が行われました

まあって、子育てについていろいろな面から話し合う「子育て井戸端談議」が開催されました。参加者の一人が、「上の子のときは誰とも話せず、家に引きこもって子育てしていた。そして下の子のときにこれでは『だめだ』と思い、思い切ってここに来た。今では、他の子どもやお母さんとふれあうことで、心から癒され子育てできている」と感謝の念のこもった言葉で話されると、会場からは大きな拍手が送られていました。

新島連絡協議会加盟の企業50社 約150人が海岸を清掃

美しい瀬戸内を守ろうと、今年で11回目となる「リフレッシュ瀬戸内・クリーンキャンペーン」(瀬戸内・海の路



▲美しい瀬戸内を守ろう

美しい瀬戸内を守ろうと、今年で11回目となる「リフレッシュ瀬戸内・クリーンキャンペーン」(瀬戸内・海の路)が実施されました。この日、新島連絡協議会加盟の企業50社、約150人が午後2時ごろからごみ袋を手に、空き缶や空き瓶、釣り用具など約1トンを拾い上げました。参加者は、「昨年にも参加した。利用する人のちょっとした心がけで美しくなるのに、残念ですね」と話されました。

「ワンワンクラブ」がスタート

6月28日(金)、播磨中央保育園で町内各園最初の「ワンワンクラブ」が行われました。



▲犬とのふれあい

この「ワンワンクラブ」は子どもたちに、犬のかかわり方、フンの後始末や散歩の仕方を知ってもらうことで、まちの美化につなげようと開催されています。

この日は、ドッグトレーナーの宮地さんによる犬の飼い方指導があり、園児たちは楽しく犬とふれあっていました。

キャストはりま塾 新井用水路ツーリズムを実施

6月14日(土)、中央公民館を出発点に、播磨町ゆかりの今里傳兵衛さんが完成させた新井用水路をたどる、「新井用水路ツーリズム」が実施されました。

このツーリズムは、播磨ゆめづくり塾のうちの「キャストはりま塾」が企画。この塾は、住民参画型のまちづくりを目指して日々活動しており、今回

の企画は、「まちの再発見」を通じて、まちづくりに興味をもってもらうのが目的だそう。参加した人は、「こんな素晴らしい歴史の産物を見ることができました。これからは気を付けて通りたいと思います」と話されていました。

彩り鮮やか

レポーター 西村 英和さん



▲元気な苗がたくさん植えられました

大豆を使って播磨町の特産品を作ろうと、町内の大豆生産者の有志の方々が「大豆部会」を結成され、大豆(黒豆)を育てておられます。

6月25日(水)は蓮池小学校の5・6年生に大豆の苗植えを体験してもらい、大豆についてもっと理解を深めてもらう予定でしたが、残念ながらこの連日の雨で足場が悪く、児童の皆さんは苗植えができず、大豆部会の11名の方々が苗植えをされました。

この大豆は、10月中旬に収穫され、学校給食や特産品の販売を通して、児童の皆さんや町内の皆さんに広く知っていただく予定だそうです。元気な大豆(黒豆)の苗が大きく成長し、秋にたくさんの収穫が期待されます。大豆部会の皆さん、「協力ありがとうございました。」

地域の話題や行事をはじめ、「これは何?」「感じたことなど気軽に知らせてください。」と企画調整課 広報係 ☎0794(35)0356

「ごくろうさま」

レポーター 茶本 恵子さん



▲ピカピカの新型車と野添分団のみなさん

今年度の取材で、町内各分団の方々が、町民の生活を守るために日ごろから訓練し、活動して下さっていることを再認識しました。これからもよろしく願っています。

毎年、5月の週末の夜になると、野添消防水防会館のあたりがつき、消防自動車のランブがくるくる回っています。車庫の前では、播磨消防団野添分団の方々が、懸命に操法の訓練をしておられます。今年も、6月1日(日)の「播磨町操法大会」に向けての特訓が続く中、分団長の和田公司様にお話を伺いました。現在、町内には11の分団があり、野添分団では、22歳から48歳までの方、約40人が所属しておられます。私たちは、火災や水害など、災害時にはいつもお世話になっています。また、年商の活動としては、1月の出初め式、3月の防火啓発パレード、5月は礼儀や操法についての講習会、続いて6月には操法大会があります。ほかに、夏祭りや秋祭りでの警備、火災が多くなる冬に向けての防火訓練、年末警戒など、多忙です。今回の取材で、町内各分団の方々が、町民の生活を守るために日ごろから訓練し、活動して下さっていることを再認識しました。これからもよろしく願っています。



このコーナーに登場して下さる「人、仲間たち」をご紹介ください。自薦、他薦は問いません。企画調整課

子育て支援センター くれよんサークル

代表者 山本 加奈子さん

始められたきっかけは?

第1回の「ピアセミナー」(平成12年)を受講後に、高橋先生の魅力にはまって...

もっと話を聞きたい、もっと勉強したい、これで終わりにしたくないと思ったみんなが「くれよんサークル」を作りました。

グループの特徴は?

子育て中の悩みを抱えたお母さんたちのグループです。子どもの年齢は、0歳から小学校4年生までです。

活動の内容は?

月に1回、支援センターで集まっています。高橋先生が、参加してくれた方もあります。

普段の当たり障りのないお付き合いから一歩踏み込んで、お互いの悩みについて共感したり、意見を交換したりして、共に成長していくつとしていきます。

グループのモットーは?

活動中に出た話題については、その場だけのものとして、秘密厳守! (笑)

エピソードがあれば教えて

メンバーの一人は、「くれよん」を「駆け込み寺」と呼んでいます。いつも大爆笑あり、涙ありで、ハンカチは必需品! ちょっと心が疲れた時などに行くと、みんなから元気をもらえる。子どもが、心から愛せなかったり、子育てを楽しめない時があるのが、自分だけではなかったと気付くことが出来て、そういう自分も許せるようになりました。

あなたに はつたつち

リレーエッセー⑥

最近悩むこと



おがざき かつひこ
岡崎 勝彦さん
(野 添)

趣味など
下手なゴルフ・旅行
座右の銘：鶏口となるとも
牛後となるなかれ

「最初は四本足、次に二本足、最後は三本足の動物は何?」子どもの頃に教わった。なぜだか、答えは人間。人間は赤ちゃんの時にハイハイで四本足、そして二本足で歩いて、歳を取るとツエを突いて歩くので、三本足になると教わった。赤ちゃんの時のハイハイは、筋肉を作る為にも大切だが、ツエは使いたく無いものだ。最近ツエを突いて歩いてる人を見掛なくなりました。代わりに電動歩行機に乗った人や、手押し車を押して歩いてる方々を目にし、時代の変化を感じる。ハイテク技術が進歩して、ハンデを背負った人も外に出る機会が増えるのは、良い事だと思う。

車社会の現代、歩く事が少なくなっているが、朝夕、グループでウォーキングを楽しんでいる方々をよく見掛ける。話をしながら歩いたり、又は黙々と歩いている人、腕を大きく振って競走するように歩いている人々、それは様々ではあるが、目的はやはり健康維持の為であろう。飽食の時代と言われて久しいが、生活習慣病の原因の一つでもあるカロリーの摂取過多を、解消しようと歩く人もいる。私もその一人である。「腹八分目に医者いらず」とは言うものの、好物だと目一杯食べるし、偏食も甚だしい。「体力を付ける為に、野菜よりタンパク質の豊富な肉を食べよう」などと、訳の判ら

ぬ事を言う始末。「健康の維持、美容、ダイエットを目的とするウォーキングなら、週に三日以上五km歩きましょう」と、人には言うのに、今日は阪神のゲームがあるから、とか、雨が降っている、風が強い、などの理由をつけては休みたがる自分の甘さが情けない。私は現在、一七二cm、体重六三kgである。私の健康的な理想体重は六四・三kgなので、これはクリアしている。しかし、これには涙ぐましい努力が隠されている。毎日食べていたナッツ入りのチョコレートを断ったのである。しかも一年間。中性脂肪が基準値内に収まるまで、この努力はまだ続くのである。好物を我慢するストレスと健康の維持の狭間で悩む今日この頃である。

子育て支援センターはオープンして4年目になります。蓮池保育園と幼稚園の間にある「であいの塔」の中にあります。丸い屋根に小さな小鳥がとまっています。ここには「おやこさろん」という部屋があり、親子がいつでも自由に来て遊べる所です。子育てに奮闘している保護者の方々がここでホッと一息つきながら他の皆さんと気さくに話し合える場として作られました。子どもたちも慣れてくると少しずつお母さんから離れ、お友達たちも遊べるようになってきます。子育てで気になること、みんなと話をしていると解決のヒントが見つかったり、気持ちが楽になります。

『おやこさろん』へどうぞ!

子育て支援センター

『おやこさろん』は、そんな温かな気持ちのいい部屋です。また来られたことのない方もぜひお越しください。子育ての悩みは一人ひとり違うようでいて、実は共通点もたくさんあります。先輩ママのちょっとしたアドバイスや手助けがあると、どんなにか心強くていいですね。子育て支援センターの『おやこさろん』には今、そんな子育てを支え合い伝え合う輪が育ちつつあります。あなたもこの輪の中に入って、そして、みんなでの輪を大きく育てていきましょう。『おやこさろん』の開放月曜日・金曜日 午前9時から午後5時まで

わんぱくはりまっ子



うえだ ゆうあ ちゅうあ
上田 悠愛ちゃん (3さい) 大中
元気で優しいお姉ちゃんになってね (お父さん・お母さんより)

おおにし あつき
大西 温揮くん (3さい) 野添
いつまでも家族仲良しなようね (お父さん・お母さんより)



このコーナーに出ていただく「わんぱくはりまっ子」を募集しています。(3歳~5歳対象) 広報担当まで電話を。またスナップ写真を送ってもらってもけっこうです。

飛んだよ! 竹とんぼ



▲じょうずに飛ばせたよ

播磨中央保育園

お天気の良い中、きれいな色の竹とんぼが、仲良く宙を舞っていました。

老人クラブの方々から、竹とんぼをいただき、年長児が竹とんぼ飛ばしに挑戦しました。とんぼの形をしたものや、色違いのもの、たくさん種類の竹とんぼを一つ一つ丁寧に作っていただきました。「とんぼの羽だね」「少し色が違うね」と、いろいろな竹とんぼを見比べていました。

“ぬるぬる”するの、おもしろいね!

蓮池幼稚園



▲不思議な感触で大騒ぎ!

6月27日(金) みんなでボディペインティングをしました。初めは、「この絵の具、プルプルやなあ」「プリンみたいやで」と話しながら、指一本でぬるぬるしていた子どもたち。でも、あつという間に両手で「ぬるぬる」。お腹や腕、足にもつけたり、「背中も塗って!」と友だち同士、塗り合いっこをしたり、歓声をあげながら、全身、絵の具だらけです。「ぼくはカエル、ケロケロ」「ぼくはカメレオンに変身!」「ウルトラマンの色になった!」と絵の具の色によってさまざまです。「お化粧しよう」とほっぺにまで「ぬるぬる」。「あつ絵がかけるよ」と机の上に「ぬるぬる」した後、指で絵がかけることにも気付いて大喜び。「ぬるぬる」ベタベタ「おもしろいね」「気持ちよかったね」と大満足の1日でした。

天までとどけ!!



▲みんなの願い、天までとどきますように

播磨西小学校

友だちの願いごとを聞いて盛りあがっていました。きれいに飾られた笹かざりに囲まれながら、最後は「天までとどきますように!」と、世界に「ただけの花」を全生徒で歌いました。

「ケーキ屋さんになれますように」「マラソン大会で1位になりたいな」全校生が、思い思いの願いごとを書いた、色とりどりの短冊が飾りつけられた笹かざりを、学年ごとに体育館にもちよりました。7月7日(月)の児童集会は、本校の企画委員会主催の『ささかざり集会』が行われました。メインイベントの『お願いごとコンテスト』では、各クラス男女1人ずつが、自分の願いごとを発表しました。1年生から6年生まで、かわいものから、ユニークなもの、さらに平和を願うものさまざままで、友だちの願いごとを聞いて盛りあがっていました。

可能性にアタック!!

播磨南中学校 女子バレー部



▲南中女子バレー部メンバーと金城先輩(左上)

創立と同時に発足した播磨南中女子バレーボール部は、輝かしい成績を残し、また、多くの名選手を輩出してきました。卒業後も各高校でチームの中心として活躍し、南中魂を広く示してきました。

なかでも、県立氷上高等学校の金城真弓先輩は、2年生ながらレフトアタッカーとして大活躍し、8月のインターハイ出場が決まっています。南中バレー部も先輩に続くことと、6月末に氷上高校のお世話になり、指導をいただいたり、練習ゲームで胸を借りたりと、有意義な1日を過ごしました。2年前の夏、近畿・全国大会へ、あと一歩で敗れた先輩たちを上回るよう、悔いのない試合をしたいと思っています。小学校での経験はさまざまですが、一人ひとり精一杯頑張り、個人とチームの可能性を試したいと考えています。